

知・徳・体の調和のとれた「生きる力」の育成をめざした

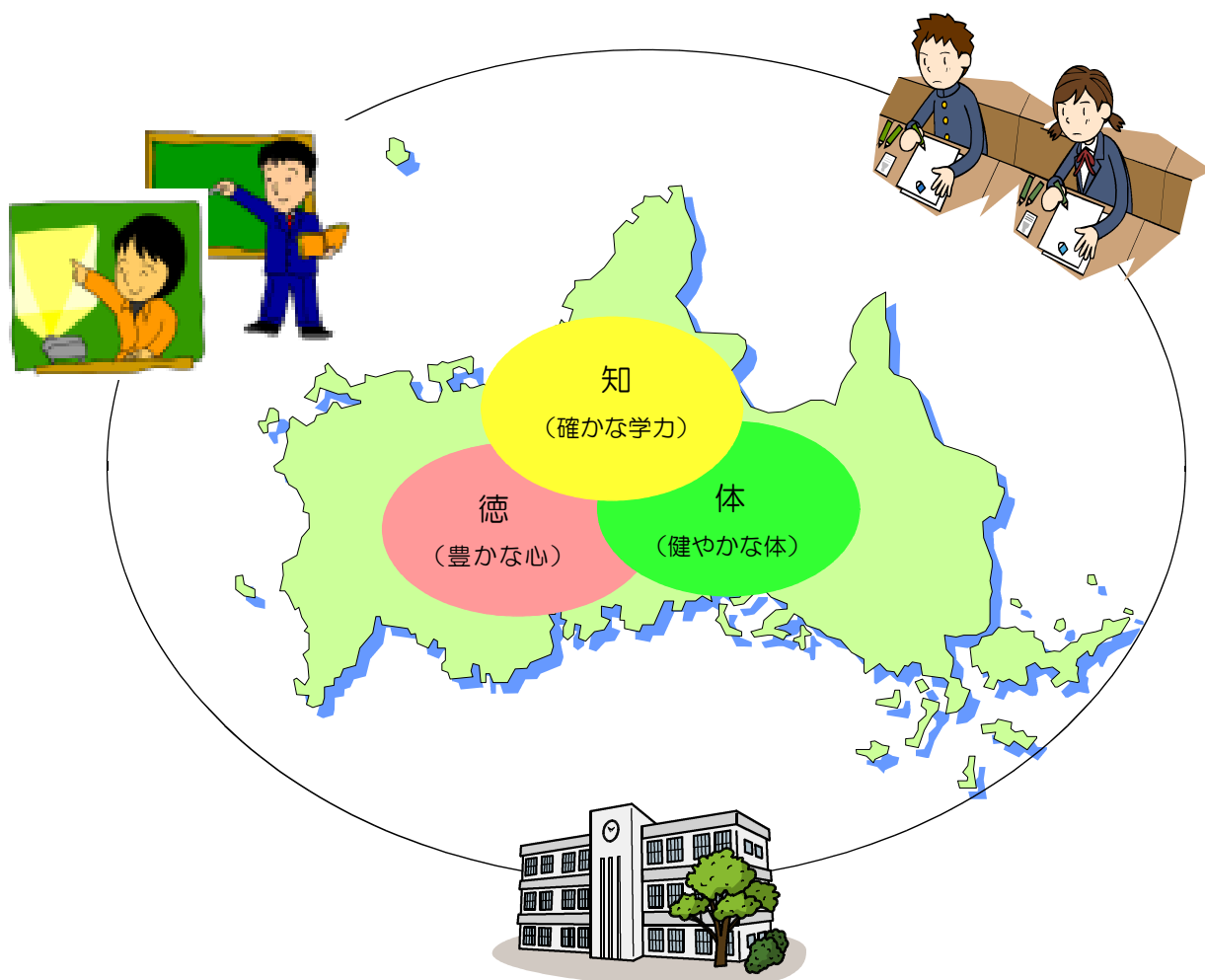
高等学校等のための

学力向上推進の手引き

～まなびゲーショ～

「まなびゲーショ」とは

本手引きが、「確かな学力」の定着を目的(地)として、そこに到達するための「学び」の方向性や道すじを示した、ナビゲーション的な性質をもつことから、サブタイトルを、「学び」と「ナビゲーション」を掛けて「まなびゲーショ」としました。



平成24年 3月
山口県教育委員会

目次

はじめに	1
山口県の高校生の「生きる力」を育む教育の概念図	2
知（確かな学力）を育むに当たってのポイント	3
学校のパワーアップ【組織的で特色ある取組の推進】	
確かな学力を育む組織的で計画的な推進体制づくり	4
キャリア教育の視点に立った進路指導の充実	5
特色ある教育課程の編成	6
教員のパワーアップ【指導力の向上】	
授業づくりと評価の工夫	8
PDCAサイクルによる授業改善	10
各種研修によるスキルアップ	11
生徒のパワーアップ【学ぶ意欲の向上】	
学習習慣の確立	13
体験的な学習活動の充実	14
自己啓発につながる活動への参加促進	15
[参 考]	
徳(豊かな心)・体(健やかな体)を育むに当たってのポイント	16

はじめに

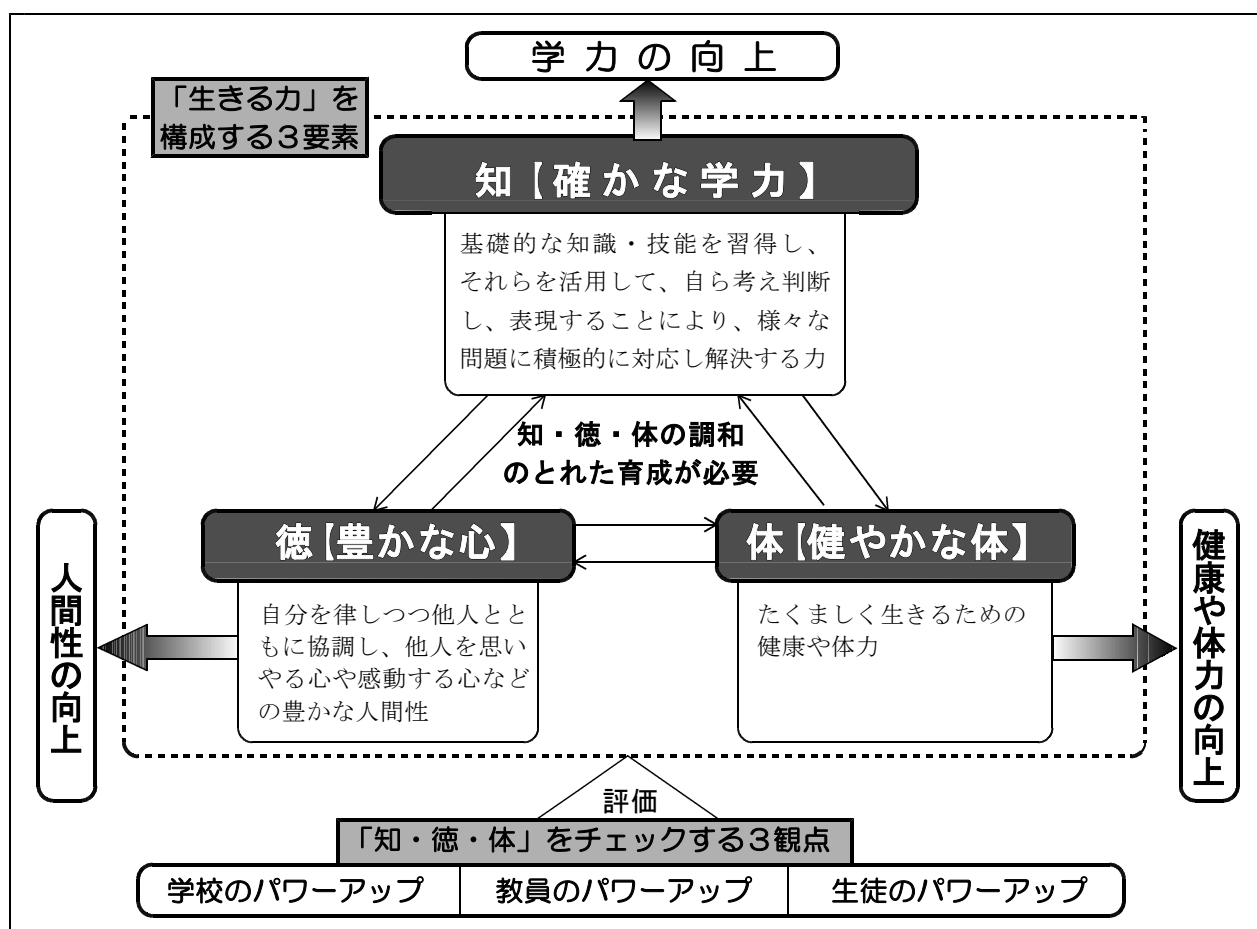
「学力の向上」は、「生きる力」を構成している3要素、すなわち、知〔確かな学力〕・徳〔豊かな心〕・体〔健やかな体〕の調和のとれた育成を図る中で進めていくことが必要です。なぜなら、「確かな学力」は、「豊かな心」や「健やかな体」の育成に影響を与えており、また、逆に、「豊かな心」や「健やかな体」は、「確かな学力」の原動力ともなる「学習意欲」の向上に影響を及ぼすなど、これら3要素はそれぞれが密接に関連し合っているからです。

平成25年度から新学習指導要領が年次進行で実施されるに当たり、高等学校段階における、知・徳・体のバランスの重要性や新学習指導要領の趣旨等を踏まえた上で、「学力の向上」に焦点を当てて、今後どのようなことに取り組む必要があるかについて、その方向性を示すものとして、本手引きを作成しました。

本手引きにおいては、知・徳・体の3要素を、「学校のパワーアップ」「教員のパワーアップ」「生徒のパワーアップ」の3つの観点から具体的にチェックできるよう構成しており、特に「知」については、それぞれの観点に係る取組の頁において、具体的な実践事例等を提示しています。

各学校においては、これまでの「学力の向上」に係る取組等をチェックし、学校の課題を明確にするとともに、本手引きを、課題解決に向けての方策を立てる際の一助としてほしいと考えています。

なお、「徳」「体」については、本手引きの巻末に掲載した【参考】「徳(豊かな心)・体(健やかな体)を育むに当たってのポイント」を確認するとともに、山口県教育委員会作成の「心の教育推進の手引き(平成24年1月)」や「体力向上の手引き(平成24年2月)」を併せて活用してください。



山口県の高校生の「生きる力」を育む教育の概念図

基本目標：夢と知恵を育む教育の推進

3つの力
(学ぶ力・創る力・生き抜く力)

3つの心
(広い心・温かい心・燃える心)

一人ひとりの夢の実現

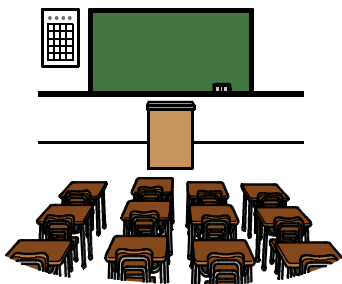
「生きる力」の育成

新学習指導要領における教育内容の主な改善事項

- ・「言語活動」 ・「理数教育」 ・「伝統や文化に関する教育」 ・「道徳教育」 ・「体験活動」
- ・「外国語教育」の充実 ・「職業に関する教科・科目」の改善

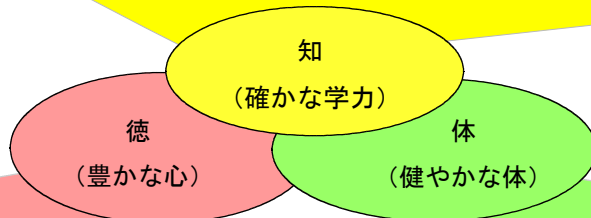
山口県における教育活動展開に当たっての3つの基軸

「キャリア教育」 「コミュニケーション能力を育む教育」 「地域や伝統、文化を踏まえた教育」



学校のパワーアップ	教員のパワーアップ	生徒のパワーアップ
<組織的で特色ある取組の推進> ● 確かな学力を育む組織的で計画的な推進体制づくり ● キャリア教育の視点に立った進路指導の充実 ● 特色ある教育課程の編成	<指導力の向上> ● 授業づくりと評価の工夫 ● PDCAサイクルによる授業改善 ● 各種研修によるスキルアップ	<学ぶ意欲の向上> ● 学習習慣の確立 ● 体験的な学習活動の充実 ● 自己啓発につながる活動への参加促進

- 知・徳・体の調和を重視して
- 教育内容の主な改善事項を踏まえて
- 教育活動展開の3つの基軸を踏まえて



学校のパワーアップ	教員のパワーアップ	生徒のパワーアップ	学校のパワーアップ	教員のパワーアップ	生徒のパワーアップ
<教育活動全体での取組の推進> ● 豊かな心を育む組織的で計画的な推進体制づくり ● 豊かな心を育む教育の推進 ● 生徒指導・教育相談体制の充実	<指導力の向上> ● 豊かな心を育む指導のスキルアップ ● 豊かな心を育む指導方法の工夫 ● きめ細かい生徒指導・教育相談の推進	<コミュニケーション能力の向上> ● 文化芸術活動の活性化 ● 生徒による自主的な活動の実践 ● 基本的なソーシャル・スキルの向上	<組織的な取組の推進> ● 健やかな体を育む組織的で計画的な推進体制づくり ● 学校体育・スポーツの充実 ● 健康教育・安全教育の推進	<指導力の向上> ● 健やかな体を育む指導のスキルアップ ● 生徒の実態に応じた指導方法の工夫 ● きめ細かい健康教育・安全教育の推進	<体力の向上/運動習慣の定着> ● 体力・競技力の向上 ● 生涯スポーツ実現に向けた運動習慣の定着 ● 自己の健康管理・基本的な生活習慣の定着

連携と協力

家庭での取組	● 学習習慣の定着	● 読書習慣の定着	● 基本的な生活習慣の定着
地域での取組	● 学校間連携及び各校種間連携（中高連携教育、高大連携教育等） ● 産学連携（インターンシップ） ● 外部人材、関係機関等との連携		

知(確かな学力)を育むに当たってのポイント

[各学校がチェック及び課題把握をし、実状に応じて、改善の手がかりとすべき取組事項]

知	学校のパワーアップ	教員のパワーアップ	生徒のパワーアップ
	<組織的で特色ある取組の推進>	<指導力の向上>	<学ぶ意欲の向上>
	<ul style="list-style-type: none"> ● 確かな学力を育む組織的で計画的な推進体制づくり ・・・P4 □ 確かな学力を育むための明確な組織目標の設定 □ 各分掌間の協働体制づくり □ PDCAサイクルに基づく組織的で計画的な学力向上に向けた取組の充実 ● キャリア教育の視点に立った進路指導の充実 ・・・P5 □ 生徒の発達段階や興味・関心、適性等を踏まえた進路指導の充実 □ 進路指導計画(進路シラバス)に基づく組織的・体系的な進路指導の充実 □ 個人別進路資料(進路カルテ)等の活用による計画的・系統的な進路指導の充実 ● 特色ある教育課程の編成 ・・・P6 □ 生徒のニーズに応じた選択幅の広い教育課程の編成 <ul style="list-style-type: none"> ☞ 義務教育段階の学習内容の定着を図るための工夫・改善 ☞ 思考力、判断力、表現力の育成を図るための工夫・改善 ☞ 教育活動展開に当たっての3つの基軸を踏まえた教科・科目の設置 	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業づくりと評価の工夫 ・・・P8 □ 「討論」「論述」「資料の収集・活用」「レポートの作成」等を重視した授業づくり □ 「観察、実験」「探究活動」「課題研究」等を重視した授業づくり □ 発信力を高める外国語指導の工夫 □ ICTを活用した授業実践 □ 各教科における道德教育の推進 □ 学校図書館を活用した授業実践 □ 評価方法の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ☞ 指導と評価の一体化 ● PDCAサイクルによる授業改善 ・・・P10 □ 授業改善3本柱 <ul style="list-style-type: none"> ☞ シラバス(抜粋)の改善・充実 ☞ 生徒による授業評価の実施 ☞ 授業研究・授業公開の推進 ● 各種研修によるスキルアップ ・・・P11 □ 校内研修(各教科・分掌等)の充実 <ul style="list-style-type: none"> ☞ 教育力向上指導員の活用 □ 校外研修(国、県教委、高教研等主催)参加後の研修成果の普及・還元 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習習慣の確立 ・・・P13 □ 高校入学前の学習指導の充実 □ 高校入学後の学習習慣づくり □ 課題等による学習習慣づくり □ 家庭学習時間の継続的な確認 ● 体験的な学習活動の充実 ・・・P14 □ インターンシップの推進 □ オープンキャンパス等への参加促進 □ 学校独自の学習セミナー等の実施 <ul style="list-style-type: none"> ☞ 学習合宿、集団宿泊指導、外部人材を活用した講習会等 ● 自己啓発につながる活動への参加促進 ・・・P15 □ 県教委主催の進学支援事業(セミナー等)の活用 □ 各種検定、資格試験の活用 □ 各種競技会、コンテスト等への参加促進 <ul style="list-style-type: none"> ☞ 「科学の甲子園」「国際科学オリンピック国内大会」「スピーチコンテスト」等 □ 国際理解を深める研修等への参加促進

■ 学力とは

[学校教育法第30条(学力の3要素)]

- 基礎的な知識及び技能の習得
- 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等
- 主体的に学習に取り組む態度

[本 県]

- 知識・技能のみならず、学ぶ意欲や、自分で考える力、自分で判断する力、自分で表現する力などを含めた総合的な力



※ 徳(豊かな心)・体(健やかな体)を育むに当たってのポイントは、巻末に掲載しています。

知
(確かな学力)

学校のパワーアップ

【組織的で特色ある取組の推進】

確かな学力を育む組織的で計画的な推進体制づくり

◆ 確かな学力を育むための明確な組織目標の設定

各学校の実態に応じて、確かな学力を育むための明確な目標を設定し、学校全体で目標達成に向けて取り組んでいますか。

【目標設定のポイント】

- 学校の実態を踏まえ、めざす生徒像、学校像を明確にする。
- 生徒・保護者・地域の願いや期待を目標に反映させる。
- 設定した目標について全教職員が共通理解する。
- 学校評価の項目に位置付け、目標の達成度をチェックする。

◆ 各分掌間の協働体制づくり

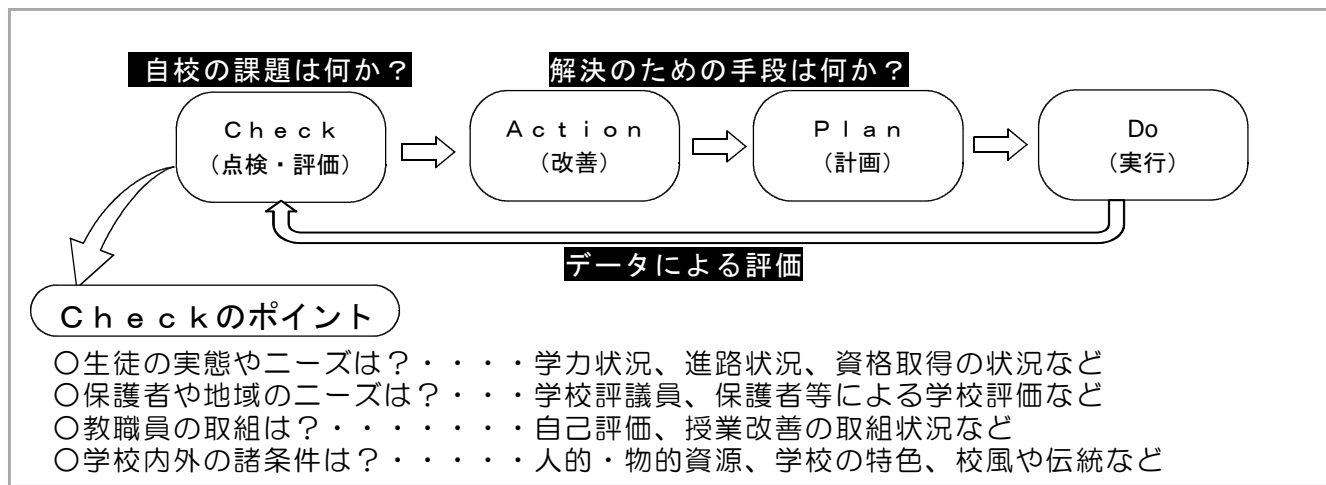
生徒一人ひとりの希望進路の実現や学校の教育目標の達成に向けて、各分掌間で連携・協働する体制ができていますか。

【各分掌間の協働の例】

- 進路指導部が各学年と連携し、進学検討会を実施。同検討会で得た情報を基に、各学級担任が、生徒の希望進路の実現に向けて効果的な指導を行っている。
- 教務部が各教科と連携し、授業改善に係る研究協議を伴う授業研究を実施。各教員の授業力の向上に向けて効果を上げている。
- 生徒指導部（教育相談）が各学年と連携し、教育相談に係る事例研究会を定期的実施。各学級担任が、保護者との連携を図りながら、生徒の精神的な状況を踏まえた効果的な指導を行っている。

◆ PDCAサイクルに基づく組織的で計画的な学力向上に向けた取組の充実

学力向上のための様々な取組を、PDCAサイクルに基づいて、定期的にチェックし、組織的・計画的に進めていますか。



※「新学習指導要領実施上の手引き～高等学校～（平成22年12月山口県教育委員会）」の「カリキュラムマネジメント」の項目を参照すること。

キャリア教育の視点に立った進路指導の充実

◆ 生徒の発達段階や興味・関心、適性等を踏まえた進路指導の充実

生徒の発達段階や興味・関心、適性等を踏まえた上で、将来の社会的自立に向けての進路指導を行っていますか。

【ポイント】

- 生徒の発達段階に応じて自己理解を深めさせ、「自分がしたいこと」「自分ができること」「社会が求めていること」について考える機会を与える。
- キャリアカウンセリングを充実させ、生徒が自らの意志と責任で、進路を選択することができるよう支援する。
- インターンシップや職業人講話等を実施することにより、勤労観や職業観を育むとともに、将来の社会的自立に向けて、しっかりと自己の進路を考える機会を与える。



生徒が、主体的に将来の目標を設定することは、学習意欲の向上にもつながります。

◆ 進路指導計画（進路シラバス）に基づく組織的・体系的な進路指導の充実

具体的な目標を掲げた進路指導計画に基づき、組織的・体系的に進路指導を行っていますか。

【ポイント】

- 進路指導の目標や目標達成のための手立てを明確にする。
- 生徒が、将来の夢と高い志をもつような指導計画を立てる。
- 進路指導のための校内組織を整備する。
- 進学や就職に関する情報を収集し、いつでも活用できるように整理する。
- PDCAサイクルに基づき進路指導計画の改善を図る。

進路指導計画（進路シラバス）は、校内での組織的な取組を充実させるだけでなく、保護者に提示することにより、家庭との連携を図ることができ、進路指導をより一層充実したものにすることができます。

◆ 個人別進路資料（進路カルテ）等の活用による計画的・系統的な進路指導の充実

個人別進路資料（進路カルテ）を作成し、指導に活用していますか。

【進路カルテのメリット】

- 系統的・継続的な指導ができる。
- 情報を共有することで、学級担任が代わっても一貫した指導ができる。
- 希望進路とのミスマッチを発見し、適切な指導をすることができる。
- より高い目標に挑戦させるための資料とすることができる。

進路カルテに記載する内容（生徒の希望進路や成績、家庭学習の状況、面談の内容等）は、各学校の実態に応じて工夫しましょう。

〇〇高等学校 進路カルテ <サンプル>

(平成〇〇年度入学)

年 組	年 組	年 組	氏名

希望進路	1年（進学・就職）希望	〇〇〇〇〇〇希望
	2年（進学・就職）希望	
	3年（進学・就職）希望	

○成績の推移	○家庭学習の状況
○特技・資格	○面談内容

特色ある教育課程の編成

◆ 生徒のニーズに応じた選択幅の広い教育課程の編成

教育課程の編成に当たり、地域や学校の実態、課程や学科の特色、生徒のニーズを考慮した適切な教育課程を編成していますか。

【教育課程編成の原則】

- 「生きる力」を育むこと。
- 基礎的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うこと。
- 言語活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、生徒の学習習慣が確立するよう配慮すること。

【教育課程編成のポイント】

- 学校の教育目標を明確にし、その目標を達成するための教育課程を編成する。
- 生徒の特性や進路等に応じた適切な各教科・科目の選択履修ができるよう配慮する。
- 学習指導要領に定められた単位数を標準として、各学校で適切な単位数を配当し、教育課程を編成する。

※詳しくは、「新学習指導要領実施上の手引き～高等学校～（平成22年12月山口県教育委員会）」を参照すること。

新学習指導要領においても、地域、学校及び生徒の実態、学科の特色に応じ、学校設定教科・科目を設けることができます。

義務教育段階での学習内容の定着を図るための工夫・改善をしていますか。

【具体例】

- 第1学年に義務教育段階での学習内容の確実な定着を図るための学校設定科目を設置する。

学校設定科目の設置例

「基礎国語」「基礎数学」
「基礎科学実験」等

- 各教科・科目の指導に当たり、義務教育段階での学習内容の確実な定着を図るための学習機会を設ける（必履修教科・科目の増単位等）。

思考力、判断力、表現力の育成を図るための工夫・改善をしていますか。

【具体例】

- 基礎的・基本的な知識・技能を活用した課題解決的な学習や探究活動を行う学校設定科目を設置する。

学校設定科目の設置例

「評論探究」「数学探究」「探究物理」
「比較文化」「世界史探究」「プレゼンション」等

- 各教科・科目の指導に当たり、話し合い、発表、レポート作成等の言語活動の充実を図る。

思考力、判断力、表現力の育成に当たっては、各教科・科目において、生徒の言語活動の充実を図ることが大切です。また、生徒の言語活動がより適正に行われるようにするために学校生活全体において言語環境を整えることが重要です。

教育活動展開に当たっての3つの基軸を踏まえて、教育課程の編成を行っていますか。

「新学習指導要領実施上の手引き～高等学校～（平成22年12月山口県教育委員会）」の各教科の改訂及び授業改善のポイントに示した取組の例なども参考にして、各教科・科目において「3つの基軸」を意識した教育活動を展開していくことが大切です。

【3つの基軸を踏まえた学校設定教科・科目の設置例】

コミュニケーション能力を育む教育

教科名	学校設定科目名
外国語	国際コミュニケーション 発展コミュニケーション クリエイティブ・ライティング
商業	プレゼンテーション

キャリア教育

教科名	学校設定科目名
総合	産業社会と人間 進路プランニング

地域や伝統、文化を踏まえた教育

教科名	学校設定科目名
国語	郷土文学研究、山口の文学
地歴	郷土研究
家庭	伝統文化（和服）、和文化
総合	日本文化研究
農業	地域環境
日本文化	茶道、華道、香道



知
(確かな学力)

教員のパワーアップ

【指導力の向上】

授業づくりと評価の工夫

◆ 「討論」「論述」「資料の収集・活用」「レポートの作成」等を重視した授業づくり

全ての教科・科目において、「言語活動の充実」に努めていますか。

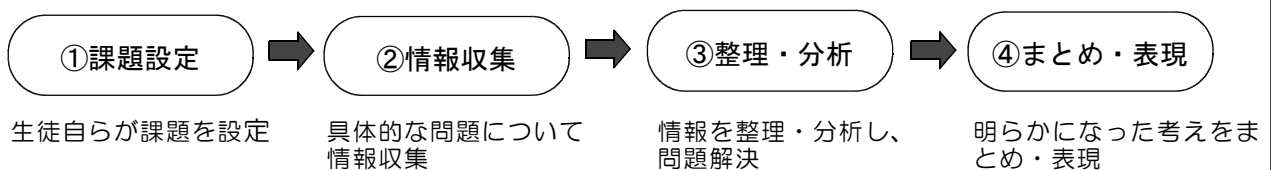
【授業実践例】

- 観察、実験等のレポートにおいて、視点を明確にして、観察したり見学したりした事象の差異点や共通点をとらえて記録・報告する（理科、地理歴史等）。
- 比較や分類、関連付けといった考えるための技法、帰納的な考え方や演繹的な考え方などを活用して説明する（数学、理科等）。

◆ 「観察、実験」「探究活動」「課題研究」等を重視した授業づくり

「観察、実験」などの体験的な活動、「探究活動」「課題研究」などの課題解決的な学習活動を授業に取り入れていますか。

【「探究活動」「課題研究」の展開例】



◆ 発信力を高める外国語指導の工夫

生徒が、習得した語彙や文法などを活用して発信する授業展開になっていますか。

【授業実践のポイント】

- 生徒が英語による言語活動を行うことを中心とした授業展開とする。
- 読んだり聞いたりして理解した内容について、要点を整理し、自らの考えを発信できる授業となるよう工夫する。



◆ ICTを活用した授業実践

「学び」の場で、ICTを効果的に活用していますか。

【授業実践のポイント】

- ICTを効果的に活用した、分かりやすく、理解が深まる授業にする（パソコンや実物投影機、各種ソフト等を活用した教材提示など）。
- 生徒の情報活用能力を育成する（情報検索・収集能力、情報を判断する能力、資料作成能力、調べたこと・考えたことを発表する能力の育成）。

◆ 各教科における道德教育の推進

全ての教科・科目において、道德教育を展開していますか。

【授業実践のポイント】

- 「人間としての在り方、生き方に関する教育」を工夫し、生徒の道德性が育まれるような授業づくりを心がける。
- 生徒が感動を覚えるような魅力的な教材を開発したり活用したりする。

◆ 学校図書館を活用した授業実践

「学び」の場で、学校図書館を効果的に活用していますか。

【授業実践のポイント】

- 図書館の利用方法をはじめ、図書及び図書以外の様々なメディア（新聞、雑誌、DVD等）の特性を理解し、適切に利用する能力を高める。
- 生徒が、必要な情報を得るとともに、その情報を基に思考力・判断力・表現力を高めることができるよう工夫する。

◆ 評価方法の工夫

多様な評価方法を取り入れていますか。

【評価方法の工夫・改善のポイント】

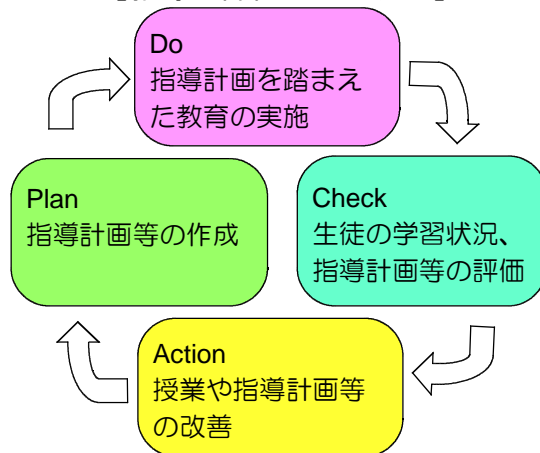
- **分析的な評価、記述的な評価の導入**
総括的な評価のみではなく、分析的な評価、記述的な評価も工夫する。
- **評価の場面の工夫**
学習後のみならず、学習前の生徒の状況の把握や学習の過程における評価を工夫する。
- **評価の時期の工夫**
学期末や学年末だけでなく、目的に応じ、単元ごと、単位時間ごとなどにおける評価を工夫する。
- **評価方法の工夫**
評価の方法は、ペーパーテストのほか、観察、面接、質問紙、作品、ノート、レポート、実技などを用い、その選択・組合せを工夫する。生徒による振り返りの自己評価、生徒同士の相互評価も取り入れる。

【「指導」と「評価」の一体化を意識した授業】

評価は、生徒にとって自分の学習に対する成果を見つめ直し、今後の学習をより一層充実させるための指標となるものであり、後の学習支援に生かしてこそ意味があるものとなる。つまり、指導と評価は別物でなく、評価の結果によって後の指導を改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価するという、指導に生かす評価を充実させることが重要である。

右の図を参考に、指導と評価の一体化を意識した授業に心がけましょう。

【指導と評価のサイクル】



PDCAサイクルによる授業改善

◆ 授業改善3本柱（シラバスの改善・充実、生徒による授業評価の実施、授業研究・授業公開の推進）

全ての教科・科目において、PDCAサイクルに基づいた授業改善に取り組んでいますか。

授業改善の3本柱を有機的に結び付けた「授業改善」に取り組みましょう。

【「授業改善」の進め方の例】



Plan シラバス（授業計画）の作成・配付

*生徒が主体的に学習計画を立て、意欲をもって学習に取り組めるよう、各教科等の授業の目標・学習内容・学習方法・評価方法を生徒・保護者に十分説明する。

Do 授業実践

- 日々の授業をきめ細かく見直す。
- 各授業・各単元の評価については、観点別の評価規準を設定して分析的な評価を行い、指導に生かす。

*4観点を意識した授業は、必ず授業改善につながる。

Check

●多面的な授業評価

Check ①～③を組み合わせ、多面的に授業を評価して改善につなげる。

Check ① 生徒による授業評価

指導方法等の見直し ← 問題点の把握 ← 評価結果の分析 ←

Check ② 授業研究（研究協議を実施 → 研究授業に対する教員等による授業評価）

指導方法等の見直し ← 問題点の把握 ← 評価結果の分析 ←

- 学習指導案には、必ず観点別評価の項目を入れる。
- シラバスどおりに授業が実施されているかをチェックする。
- 初任者研修・10年経験者研修等との連携を図る。

*研究授業時に、生徒と教員の授業評価を同時に実施すると評価の客観性が高まる。
*担当教科以外の授業参観も有効な方法となる。

Check ③ 授業公開（保護者・地域・他校種教員等による外部評価）

指導方法等の見直し ← 問題点の把握 ← 評価結果の分析 ←

- 近隣の高校や他校種の学校にも案内をし、幅広い視点からの意見を参考にして、授業改善を進める。

Action Checkで明らかとなった課題の解決策の検討を実施（教科会議・校内研修会等の開催）

Plan 指導方法の見直し

Do 授業実践

●改善効果の点検・検証

Check ①～③ 生徒、自校・他校の教員、保護者等による授業評価



Action 成果と課題のまとめ → 次年度の指導計画の検討

各種研修によるスキルアップ

◆ 校内研修（各教科・分掌等）の充実

それぞれの学校の教育課題に対応した校内研修を実施していますか。

【校内研修の意義とは】

- 様々な研修を通して、教員として必要な専門的資質能力及び学校全体の教育力の計画的・継続的な向上を図る。

【校内研修の企画・立案】

- 「学習指導」「生徒指導・教育相談」「人権教育」「道徳教育」「特別活動」「進路指導」「ICT活用」「学級経営」「教職員の服務・倫理」等について、学校の現状と課題を整理する。
- 研修により実現したい目標を立てる。
- 必要に応じて、研修に参加する構成メンバーのキャリアステージを意識して計画を立てる。
- 研修形態について、講義型のみならず、討議、事例研究（ケーススタディ）、体験学習、シミュレーション（ロールプレイング、教育ゲーム等）、ワークショップ等の様々な形態を目的に応じて取り入れる。

【検証する機会の設定】

- 研修後に、研修をどのように生かしたかを検証する機会を設ける。

※校内研修については、「校内研修事例集 よりよい校内研修をめざして（平成19年2月山口県教育委員会）」、「教職員人材育成基本方針（平成24年3月山口県教育委員会）」を参照すること。

【OJTの推進】

校内研修の手法の一形態として、OJT（On the Job Training）がある。日常的な職務を通して必要な知識や技能、意欲、態度などを、意図的・計画的、継続的に高めていく取組のことである。

なお、学校におけるOJTには、次の3つの場面などが考えられる。

- ・ 先輩教員の日常的な助言や仕事ぶりから学ぶ。
- ・ 新たな職務を経験する。
- ・ 教員相互で学び合う場を活用する。

※詳しくは「学校におけるOJT推進の手引き～学校内における人材育成に向けて（平成24年3月山口県教育委員会）」を参照すること。

校内研修を行うに当たり、教育力向上指導員のもつ高い指導技術やノウハウを活用していますか。

【教育力向上指導員とは】

- 次の6つの分野において、優れた教育実践を行うとともに、顕著な業績をあげたり、指導力を発揮したりしている現職教員である。委嘱期間は2年間。
- ①学習指導 ②生徒指導又は進路指導等 ③学校体育、学校保健又は学校給食
- ④部活動等 ⑤特別支援教育 ⑥その他学校教育

【教育力向上指導員の活用例】

- 教育力向上指導員の公開授業を参観する。
- 派遣申請に基づく訪問指導、助言を受ける。
(研修支援、モデル授業、個別指導等)
- 各種研修会における講師、指導者等として招聘する。

【参考】

- 指導員一覧、派遣要請の流れ、授業公開等の一覧は、やまぐち総合教育支援サイトに掲載されています。
- 授業公開等の一覧については、内容を随時更新するとともに、各校に文書でも通知し、活用促進を図っています。
- 同サイトでは、公開授業の映像も視聴できます(10分程度に編集した映像)。
また、やまぐち総合教育支援センターでは、県内の教職員に授業映像を収めたDVDの貸出を行っています(30分程度に編集した映像)。

◆ 校外研修(国、県教委、高教研等主催)参加後の研修成果の普及・還元

校外研修の研修成果を、校内で普及・還元していますか。

【普及・還元の例】

- 教科会議、学年会、分掌会議、職員会議等で復伝を行う。会議の時間が確保できない場合は、報告書、資料等を供覧する。
- 校外研修に参加した教員を講師として、校内研修会を開催する。

県教委各課・室及びやまぐち総合教育支援センター主催の校外研修については、山口県教育委員会のウェブサイト(教職員課)又はやまぐち総合教育支援センターのウェブサイトで紹介しています。

知
(確かな学力)

生徒のパワーアップ

【学ぶ意欲の向上】

学習習慣の確立

◆ 高校入学前の学習指導の充実

中学校の学習から高等学校の学習への接続はスムーズですか。

【実践例】

- 合格発表（推薦入試合格内定を含む）から高校入学までの間に取り組み課題を与え、中学校での学習内容のうち、高校入学後の各教科・科目の学習に必要な基礎的・基本的な内容の定着を図る。
- 事前に与えた課題を基に、入学後に確認テスト等を行う。



「高校入学後も頑張るんだ！」という生徒のモチベーションを高めましょう。

◆ 高校入学後の学習習慣づくり

各教科・科目の学習方法について生徒に情報提供をしていますか。

【実践例】

- 各教科・科目の学習方法を入学直後のオリエンテーションや最初の授業で説明する。
- 高校生活に慣れるまでは、放課後に学習会や質問会を開くなど、授業の予習・復習の習慣が身に付くよう工夫する。

最初が大切！

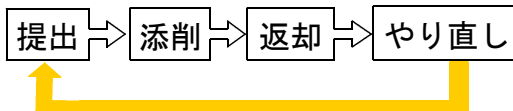
◆ 課題等による学習習慣づくり

課題を与えるだけで終わっていませんか。

【実践のポイント】

課題は与えるだけでは不十分です！

- 徹底 徹底に取り組みよう指導する。
- 支援 アフターケアとフィードバックを行う。
- 継続 単発的で一過性の取組とならないよう、定期的・長期的に行う。



「何を学習したらよいのか分からない。」「どのように学習すればよいのか分からない。」といった生徒へは、学習の進度に応じてバランスよく計画的に週末課題を与えることにより、家庭学習の習慣づくりや学習内容の確実な定着を図ることができます。

◆ 家庭学習時間の継続的な確認

生徒の学習状況の把握はできていますか。

【日々の学習計画表の活用例】

- 学習状況が確認できるよう、日々の学習計画と実際の実施状況を記入する。
- 月ごとに、個人・学級・学年の合計学習時間を発表し、意欲を喚起する。
- 生徒との通信欄を設けることで、生徒理解を深める。

【定期的な学習状況の把握例】

学期ごとに家庭学習時間や学習形態等を把握する「学習実態調査」等を行い、学習成績との相関関係を分析することにより、進路実現に向けた指導に役立てる（進路カルテとの関連付け）。

生徒自身が自分の学習状況を確認できるとともに、指導する教員も生徒の状況を把握することができます。

体験的な学習活動の充実

◆ インターンシップの推進

社会人・職業人への移行準備として、「高校の向こう側にある社会」、「大学等の向こう側にある社会」を意識した、体験的な活動を取り入れていますか。

【実践のポイント】

- 教育活動への適切な位置付けを図る。
- 一過性の行事にしない。➡ 事前指導の充実
- 身近な地域にも目を向ける。
- 内面の変化を促すよう指導を工夫する。➡ 事後指導の充実



高等学校でのインターンシップは、小学校での職場見学、中学校での職場体験等の成果を踏まえて展開することで、以下のような成果が期待できます。

- 自らの進路選択について主体的に取り組むことができるようになる。
- 体験を通して日々の学習の意義を再確認し、学習意欲の向上を図ることができる。
- 多くの職業人と触れ合うことでコミュニケーション能力の向上を図ることができる。
- 仕事をする上で必要となる知識、技術、技能について考えることができる。

◆ オープンキャンパス等への参加

進学先で何が学べるのか、自分で確かめることを勧めていますか。

【実践のポイント】

- 第2学年までに参加する機会を設け、意欲の向上につなげる。
- 自分が興味ある学問分野が学べる学校、将来就きたい職業へとつながる学校を自分で確かめるようにする。
- 参加後にレポートを提出したり、発表会の機会を設けたりして振り返りを行うとともに、他の生徒との情報の共有を図る。



進学情報誌やインターネットなどから学校の情報は入手できますが、「百聞は一見にしかず」です。学校の雰囲気や教育方針を知るには、実際にその学校に行ってみるのが一番です。オープンキャンパス等への参加は、進学意欲の向上にもつながります。

◆ 学校独自の学習セミナー等の実施

進路実現に向けて、皆で頑張ろうという校内の雰囲気をつくるための取組をしていますか。

【実践例】

- 学習合宿や集団宿泊指導などを実施する。
- 外部人材を活用した講習会や出前授業を実施する。



寝食を共にしながら、学習に取り組んだり、共同作業による課題解決を行ったりすることにより一体感が生まれます。また、専門家の話を聞いたり、本物に触れたりする機会を与えることにより学習意欲が向上していきます。

自己啓発につながる活動への参加促進

◆ 県教委主催の進学支援事業（セミナー等）の活用

他校の生徒といっしょに学習し、刺激を受ける機会を活用していますか。

【実践例】

- 「学校プランサポート」を活用し、複数校による合同学習指導等を実施する。
- 「ステップアップセミナー」において開催される各セミナー（進学サポートセミナー、進学チャレンジセミナー、進学パワーアップセミナー等）に進路希望等に応じて参加を促す。

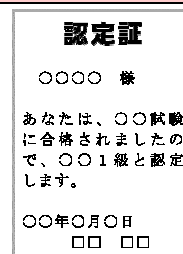
自校での学習に加えて、他校の高校生と共に学ぶ経験をすることで刺激を受け、「井の中の蛙」で終わらず、自己を高めようとする意欲が生まれます。

◆ 各種検定、資格試験の活用

生徒が達成感や充実感をもてるように支援ができていますか。

【実践例】

- 検定試験合格や資格取得に向けた勉強会を設ける。
- 生徒自身が、卒業までに、どれだけの資格を取得するかという目標を設定し、その実現に向けて学習計画を立てるようにする（いつから準備を始めるか。どのような勉強をするか等）。



努力した成果が形として現れることで、生徒は達成感や充実感もちます。それにより、「もっと頑張ろう！」という前向きな思考になります。生徒の夢の実現に向けた支援をしましょう。

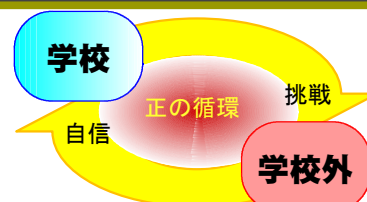
◆ 各種競技会、コンテスト等への参加促進

学校での学習を生かし、学校外で自分の力を試すような機会を活用していますか。

【実践例】

- 「科学の甲子園」「国際科学オリンピックの国内大会」「スピーチコンテスト」等に参加し、各校外において同年代の生徒と競い合う機会を活用する。
- 県内外において開催される様々な「課題研究発表会」等に参加し、自分たちの取組や成果を多くの人に伝える機会を活用する。

学校で学習した内容が、学校外（社会）で生かせることを実感し、学ぶことの意義を再認識することは、学習意欲の向上につながります。学校外における活動を利用して生徒を伸ばす「正の循環」を生み出しましょう。



◆ 国際理解を深める研修等への参加促進

海外の人々と交流し、国際感覚を身に付ける機会を活用していますか。

【実践例】

- 「慶尚南道友好相互交流事業」に参加し、山口県と姉妹提携を結んでいる韓国慶尚南道の高校生と交流する機会を設ける。
- 「高校生留学促進事業（仮称）」を活用し、海外留学の経費に係る補助の案内をし、海外留学を希望する生徒が留学しやすい環境をつくる。

徳（豊かな心）・体（健やかな体）を育むに当たってのポイント

徳	学校のパワーアップ	教員のパワーアップ	生徒のパワーアップ
<p><教育活動全体での取組の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ●豊かな心を育む組織的で計画的な推進体制づくり <ul style="list-style-type: none"> □豊かな心を育むための明確な組織目標の設定 □各分掌間の協働体制づくり □P D C Aサイクルに基づく組織的で計画的な心の教育の推進 ●豊かな心を育む教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> □チャレンジ目標の設定と学校評価への位置付け <ul style="list-style-type: none"> ☞「あいさつ」「掃除・美化」等の取組 □教育活動全体を通じた道德教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ☞道德教育全体計画・年間指導計画の工夫・改善 □体験活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ☞自然体験、社会体験等の計画的な実施 ●生徒指導・教育相談体制の充実 <ul style="list-style-type: none"> □「開発的・予防的な生徒指導」の展開 <ul style="list-style-type: none"> ☞「よりよい生徒指導に向けて」の活用 □保護者や地域との連携 □スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等の専門家や関係機関との連携 	<p><指導力の向上></p> <ul style="list-style-type: none"> ●豊かな心を育む指導のスキルアップ <ul style="list-style-type: none"> □自己指導能力の育成を念頭に置いた指導・支援の充実 <ul style="list-style-type: none"> ☞自己存在感の向上、共感的人間関係の育成、自己決定場の設定 ☞「心の教育推進の手引き」「豊かな心を育む体験活動推進資料(DVD)」等の活用 □規範意識の醸成に関する指導の充実 <ul style="list-style-type: none"> ☞自由と責任や権利と義務の意義について自覚を一層深める指導 ●豊かな心を育む指導方法の工夫 <ul style="list-style-type: none"> □人間関係づくりプログラム(A F P Y)の実践 <ul style="list-style-type: none"> ☞「A F P Y啓発リーフレット」の活用 □道德教育・人権教育のプログラム、教材開発 □外部人材の活用 ●きめ細かい生徒指導・教育相談の推進 <ul style="list-style-type: none"> □生徒の多角的・多面的な理解 <ul style="list-style-type: none"> ☞校内での情報共有 ☞定期的な生活アンケートや個人面談の実施 ☞場面を捉えた教育相談 □生徒が互いを尊重する学級経営 	<p><コミュニケーション能力の向上></p> <ul style="list-style-type: none"> ●文化芸術活動の活性化 <ul style="list-style-type: none"> □優れた文化芸術の鑑賞 <ul style="list-style-type: none"> ☞学校芸術文化ふれあい事業の活用 □読書習慣の定着 <ul style="list-style-type: none"> ☞学校図書館の活用 ☞朝の読書等の全校一斉の読書活動の促進 □部活動（文化部）の充実 ●生徒による自主的な活動の実践 <ul style="list-style-type: none"> □ホームルーム活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ☞安心して発言できる雰囲気づくり □豊かで充実した学校生活づくり <ul style="list-style-type: none"> ☞生徒会活動の活性化 ☞委員会活動の充実 □学校行事への積極的な取組 <ul style="list-style-type: none"> ☞自己有用感を育む各種行事の充実 □ボランティア活動への参加促進 <ul style="list-style-type: none"> ☞事前・事後の指導の充実 ●基本的なソーシャル・スキルの向上 <ul style="list-style-type: none"> □人間関係づくりプログラムによる活動機会の充実 □異年齢交流による思いやりの心などの醸成 	

体	学校のパワーアップ	教員のパワーアップ	生徒のパワーアップ
<p><組織的な取組の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ●健やかな体を育む組織的で計画的な推進体制づくり <ul style="list-style-type: none"> □健やかな体を育むための明確な組織目標の設定 □P D C Aサイクルに基づく組織的で計画的な体力向上に向けた取組の充実 □学校保健関係者等との連携による推進体制の充実 ●学校体育・スポーツの充実 <ul style="list-style-type: none"> □外部指導者活用による学校体育活動の活性化 <ul style="list-style-type: none"> ☞地域のスポーツ人材活用 □体育的行事の積極的開催 □柔軟な部活動運営の推進 <ul style="list-style-type: none"> ☞合同チームによる大会参加等 ●健康教育・安全教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> □学校保健委員会等の活性化 □家庭、地域の関係機関等との連携 □講演、研修会等の充実 <ul style="list-style-type: none"> ☞講師選定、事前打合せ等 ☞生活習慣、メンタルヘルス、歯と口、性及び感染症、飲酒・喫煙・薬物乱用防止、食育等 	<p><指導力の向上></p> <ul style="list-style-type: none"> ●健やかな体を育む指導のスキルアップ <ul style="list-style-type: none"> □校外研修参加後の研修成果の還元 □運動習慣の定着に向けた学習指導と評価の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ☞指導と評価の一体化 ●生徒の実態に応じた指導方法の工夫 <ul style="list-style-type: none"> □「体力向上の手引き」を活用した生徒の実態把握と取組の工夫 □バランスのよい体力の習得に向けた保健体育の授業の改善と充実 □中・高連携による系統的学習計画(学習プログラム)の作成 <ul style="list-style-type: none"> ☞生涯スポーツ(マイスポーツ)獲得に向けた取組 ●きめ細かい健康教育・安全教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> □ホームルーム等での健康観察 □定期的な健康チェックによる個別相談の実施 <ul style="list-style-type: none"> ☞生活習慣、メンタルヘルス等 □保健体育科をはじめとする各教科との連携による保健指導の充実 	<p><体力の向上/運動習慣の定着></p> <ul style="list-style-type: none"> ●体力・競技力の向上 <ul style="list-style-type: none"> □体力の課題の分析と解決に向けた具体的取組 <ul style="list-style-type: none"> ☞P D C Aサイクルの活用 □卒業後も継続して行えるスポーツに向けた取組の充実 <ul style="list-style-type: none"> ☞選択制授業の積極的導入 □部活動（運動部）の充実 ●生涯スポーツ実現に向けた運動習慣の定着 <ul style="list-style-type: none"> □総合型地域スポーツクラブ等を活用した運動機会の充実 □多様なスポーツとの関わり方への積極的取組 <ul style="list-style-type: none"> ☞「する」「観る」「支える」 ●自己の健康管理・基本的生活習慣の定着 <ul style="list-style-type: none"> □定期検診の結果に基づいた健康課題への取組 <ul style="list-style-type: none"> ☞治療、予防等の具体的取組 □規則正しいバランスのとれた食習慣の定着 □自己の体調管理や病気やケガの予防に向けた具体的取組 	